



LA NOUVELLE

N°13 AUTOMNE

東京外語仏友会

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-14-10

本郷サテライト 東京外語会気付

発行責任者 藤倉洋一 (昭45)

2014.10.1 発行

第19回仏友会総会

4月19日、恒例の仏友会総会が東京・大手町サンケイプラザで開催された。出席者は現役学生5名を含めて51名であった。

藤倉会長の挨拶・会務報告・会計報告の後、富田幹事より監査報告があり、承認された。続いて、仏友会会則第6条2項に則り、役員改選を行ったところ、藤倉会長以下の全役員と幹事が再任された。その後、中村昭彦氏(昭31)による「スクリーンの前と後」と題する講演があり、モーリス・ロネ主演、ジャンヌ・モロー共演の映画「死刑台のエレベーター (1958)」を始めとする数々の名作について興味深いお話を聞くことができた。

休憩の合間に、昭和41年卒までと43年卒以降の2つのグループに分かれて出席者の記念撮影を行った。引き続いての懇親会では、赤白のボルドーワインのグラスを手に、仏友会ならではの和やかな雰囲気の中で、久しぶりの再会と会話を楽しんだ。

なお、このたびの総会では、スタッフ不足のところを、林義之さん(昭41)と西敏彦さん(昭46)に写真撮影のご協力をいただき、大いに助けられた。この場を借りて感謝申し上げたい。

講演内容については、講演者である中村氏(=写真下)に概要の執筆をお願いしたので、参加されなかった方々にも楽しんでいただければ幸いである。

スクリーンの前と後

中村昭彦 (昭31)

ここ数年の一年当り日本の映画興行収入は、邦画と洋画の割合が半々という傾向のなか、ほぼ二億億円寸前のところまで回復してきている。興行形態は、シネコン系とアート・ミニシアター系に二極化している。大震災後、ここ数年の間に高画質を取り入れた、映画の制作・配給・興行のデジタル化が急速に進み、ほとんどすべての映画館がデジタル化された結果、コストのかかるフィルムは使われなくなった。技術の更なる向上という点では、3Dのみならず、他の革新的な設備をもつ映画館も登場してきている。今や日本では、日本映画・外国映画ともにそれぞれ年間500種類以上の映画作品を選(よ)り取(ど)りみどり観られる環境になっている。映画館は原則全館指定席になっているところ、昨年、銀座のある単館系映画館の立



昭和41年卒までの出席者と現役学生

見席で入場・観賞せざるをえないことが起こった。まるで50数年前の映画館の様子さながらの状況を呈した。その際の上映作品は「クロワッサンで朝食を」という、本年86才現役女優ジャンヌ・モロー主演のフランス映画であり、近年、映画に対する観客層一般の情熱が増してきているようだ。

そのジャンヌ・モローが若くして出演しているフランス映画「現金(げんなま)に手を出すな」、「死刑台のエレベーター」、「恋人たち」などが公開された当時は、まだテレビが普及していない時代で、普通のニュース画像は映画館に行かなければ見られない時代であった。人びとはアメリカの物質的な豊かさやヨーロッパの精神的な豊かさにあこがれ、映画館に足しげく通っていた。上記のフランス映画やドイツ映画など、またスイス映画「アルプスの少女」も含め、手広く輸入配給していた映配株式会社は、邦人系インデペンデント映画輸入配給の大手として、塩次社長のもと渉外部、制作部、宣伝部、営業部および主要各地に支社を備え活躍していた。東京外語フランス語科を卒業後この会社に5年半在籍中に得た映画界での全体験は、今でも思い出深い貴重なものとなっている。ヨーロッパから訪日した映画監督、俳優たちの接待、プロデューサーの日本案内や撮影所案内、フィルムの空輸スケジュール化、大蔵省への申請と輸入通関業務、フランス語での手紙のやりとり、字幕翻訳者との打ち合わせ、映画輸出と東映外国部とのお付き合い、などなど盛り沢山の体験だった。当時の興行公開形態はロードショー館が一番で、その後の二本立て館が二番で、次に名画座という順序であった。「死刑台のエレベーター」

の封切りでは、ロードショー館の日比谷映画の前に長蛇の列ができた。

映画の多面的な本質の一つは、記憶のなかに感動を呼び起こす思い出を残してくれる点だろう。それなら、本当に感動させてくれる映画をどうすればあらかじめ探せるのか。あくまで映画の力の30%は宣伝(批評もプラスされ)、70%は作品という点を考慮しなければならない。そのうえで、日本で公開される年間約1000本もの映画作品のなかから、自分の期待に合いそうな作品を選び出すためのコツの一つは、好奇心をもって自分なりのアンテナを張り巡らすこと。例えば、定期的に好きな単館系の映画館の番組に興味をもつことなどもよい。興行収入の多い作品が自分にとって“よい映画”とは必ずしも言えないかもしれないが、やはり大いに参考になる。歴代興行収入第一位の作品は、平成13年7月公開の宮崎駿(はやお)監督の「千と千尋の神隠し」で、このことに象徴されるように興行収入のなかでアニメ映画の割合が占める割合が大きく、全体の興収のほぼ4割に達している。好調な展開を見せている「アナと雪の女王」もディズニーのアニメである。よい映画とは、結果論からいえば、その映画を見終えたあと、自分の気持ちがすがすがしく、リフレッシュした感じの映画といえる。自分の生活のなかに感動の世界を増やしてくれるような映画作品を事前に的確に察知できれば理想的である。日ごろ問題意識をもって、自分の映画歴のキャリアを地道に積み重ねていけば、その理想郷に近づけるのではなかろうか。自分の察知した映画作品がその思い通りの本物なのかどうかの鑑定能力を養う努力は、映画にとどまらず、その他の重要な生活の場面でも役立つかもしれない。



昭和43年卒以降の出席者と現役学生

限られた中での気づきを求めて

仏友会会長 藤倉洋一 (昭45)

いつからインターナショナルという言葉がグローバルに取って代わられたのだろうか。一昔前、「英語を喋れば10億人と話せます」といった内容の英会話学校の広告があったが、考えてみれば、確かにその通りとはいえ、この地球上で10億人と話をしたことのある人なんていないだろう。日本の人口が1.3億人でも、全員知り合いだったら、朝から晩まで挨拶だけで1日が終わってしまうだろう、などと、よく戯れに言ったものだ。しかし、時間的にも空間的にも実生活は有限である。

その限られた出会いの中で、一番肩肘を張る必要がないのが、学生時代の付き合いではなかろうか。2年前、仏友会の会長をお引き受け

して以来、たくさんのお会いと気づきがあり、とても新鮮であった。

春の総会、秋のサロン仏友会といったイベント、年に2回の会報誌「LA NOUVELLE」の発行が中心となる活動内容だが、その準備のために平均すれば月1回の幹事会(幹事13名で構成)を大学の本郷サテライトで開催している。

仏友会はフランスやフランス語という共通のキーワードが根底にある仲間の集いだからすぐ親しくなれる。無理強いもない、押しつけもない。自由闊達な楽しい集いを標榜している。

いろんな事情で出席が叶わない仲間も多いと思う。だから、いわば出席できる人は幸せな人ばかりである。お時間が許せば、気軽に仏友会のイベントに出席し新しい発見や気づきを楽しんでいただきたいと思う。そして、いろんなアドバイスを通じて、幹事会メンバーを叱咤激励していただきたいと考えています。(7月1日記)

カジュアル=卒年不問

木村元康 (平5)

諸先輩方ならびに後輩の皆様へご挨拶の場を頂き光栄に存じます。1993年3月卒業後20年以上が経過しますが、仏友会の会合ではどちらかと言えば若手の部類。最近幹事の皆様のお陰で、学生さんや新卒社会人の方の参加者も増え、卒年不問のカジュアルで楽しい会合が定着しつつあります。若手の皆さん、異(同)業種交流から趣味、子育ての話まで、幅広い分野で楽しく有意義な時間を過ごせます。サロン=喫茶店くらいの気軽な気持ちでご参加頂いては如何でしょうか。

平成5年の卒業と同時に商社の兼松(株)に入社し、最初の10年は仏語圏西アフリカ向け機械輸出や地下水開発等 ODA 案件を担当。その後10年はリスク管理部(与信審査)や主計部(連結決算)に在籍。昨年3月からは資本提携先へ出向し管理部門(経営企画、与信・契約管理、資金・月次管理)の役員を務めています。趣味は、アウトドア系では水泳、スキューバダイビング、ジョギング、マラソン、ハイキング、マウンテンバイク。インドア系では楽器演奏(ギター、バイオリン=大学オケ、ピアノ)と音楽鑑賞(ジャズ、クラシック)と映画、読書です。

学部時代はパスカルの思想と時代背景に関し卒論を書きました(※ほぼ無宗教です)。入学当初、仏語は「惚れ込む」対象というより「する」対象でした。パスカルを知ったのは高校時代の現代文の教科書

または三木清の人生論ノートだったと思います。浪人中に母親を肺がんで亡くし途方に暮れる中(奇しくも今年は母の享年の46歳)、彼のDivertissement(気晴らし)の思想に過剰反応していたのです。その後、授業で象徴派詩人たちの珠玉の名品や、名詩や名曲が効果的に引用されるロメールやトリュフォー、ルコント等の映画作家を知るうちに、言語・音楽・映像の有機的連関の虜になっていました。中でも仰天したのは、ドビュッシーの歌曲「ボードレールの5つの詩」です。Sois-sage, o ma douleur, et tiens-toi plus tranquille... 厳格な形式(12音綴)と深い内容を伴うソネットが、これほど美しいメロディーに乗せられている例を他に知りません。勢い、その後の就職活動は「仏語利用」のみを柱としたナイーブなものとなりました。若気の至りですね。今では、これら「自由学芸」的な価値とは別に、汎用性の高い「実学」(福沢諭吉『学問のすすめ』)習得の必要性も痛感します。まだまだハナタレですので、両者の対立を止揚出来る境地には達していませんが。

語学はおろか専門科目でさえネットで学べる時代、月並みですが同窓会の意義は「人的ネットワーク」に尽きると感じます。アンケート等により現行のカジュアルな会合に更に磨きをかけ、効率よく「遊び」(同好)の要素を追加できれば理想的だと思います。「言うは易く」ですが、「惚れた」仏語のため微力ながら協力させて頂ければ幸いです。

第20回サロン仏友会のお知らせ 《講演とボジョレ・ヌヴォオを楽しむ会》

日時: 2014年11月22日(土) 午後2時~5時

会場: 本郷サテライト 3F・8F

会費: 3,000円

2014年分通信費(1,000円)も同時に受け付けます。

《講演》 午後2時~3時半

講師: 稲本隆司氏(昭和49年卒)元IBM勤務。

ボランティア活動家・大江戸四方山話語り部

演題: 「大江戸四方山話~西洋かぶれからの回帰」(仮題)



浅草生まれ浅草育ちの稲本さんは、「SurpriseとDesire」をモットーにボランティア活動に専念中。外国人にも人気のスポット両国・江戸東京博物館のガイドも務めています。同博物館は勿論のこと、仏印象派画家に影響を与えた浮世絵などについて、江戸を中心に活躍の内容の一端をご披露させていただきます。

《ワイン・パーティ》 午後3時半~5時

個別通知: 10月半ばに、メルアドを登録している会員にはe-mailで、その他の登録会員には往復はがきでご案内します。申し込み締切は11月9日。

連絡先: 藤倉洋一(昭45)

fujikura1639919@waltz.ocn.ne.jp

Tel/Fax 048-822-4540

勝亦杏子(昭46)

anzuko@k08.itscom.net



《パリ便り》 フランスに恋して・・・

小川あゆさ (平9)

外大の「フラ科」に入ってから、ほぼ20年。フランスでの留学を二度経て、フランスで就職、そして今はフランス人と結婚して三児の母、フランスに住んで15年くらいになる。いろいろ苦勞もしたけれど、結局私もフランスに恋をした一人なのだろうな、と思ったりする。

最初の就職先は社会学を勉強したことが功を奏して、社会心理学を活用したマーケティングリサーチコンサルティング会社だった。欧州、アメリカ、日本やアジアといった国々の人々の意識調査をし、統計的な分析をして各国の人々の時系列的な意識の変化を調べ、消費者がどういった意識を持ち何を求めているかなどを探り、そこから消費傾向を予測したり、比較したりすることを専門としていた。また単に年齢のような人口学的特徴だけではなく、社会的文化的背景が消費行動に影響することにも着目して、タイプ別分類をして企業の顧客ターゲット戦略にも活用していた。私は主に日本、アジア市場を担当し、フラン



新幹事自己紹介

森本あづさ (平25)

初めまして。私の趣味は旅行・写真で、毎年海外旅行をすることが目標です。埼玉県の大宮で生まれ、育ち、現在は埼玉の公立高校で英語の教員をしております。今年から高校1年の担任を受けもち、部活はバドミントン部、華道部の顧問で、生徒会も担当しています。

私の一日を簡単に説明します。①朝、教室に行って出席をとり、②1限～6限まで授業を行い(空き時間はあります)、③放課後、夏は高温多湿、冬は極寒の体育館でバドミントンに励み、花を生けて心を潤わせ、④部活後は授業準備と事務作業をします。体育祭、文化祭などの学校行事の際は裏方で駆け回ります。本業は勉学を教えることですが、万屋な気分です。もちろん、一番力を入れるべき仕事は授業です。文学、歴史、社会、経済、科学から芸術など、幅広い分野の題材を多言語で学ぶのが「外国語」という教科なので、毎日教材研究に勤めています。

教員に求められる力は、専門知識はもちろんのことですが、幅広い教養と、人間性、コミュニケーション能力が必要不可欠だと、一年半働いて実感します。これから社会に出て行く生徒の「生きる力」を育てるには、教師が社会を知らなければいけないと思います。そのために、仏友会の幹事として、世界中でご活躍されている先輩方との交流を通して、自身の教養を深め、自分の見聞きたこと、学んだことを生徒に伝えたいです。いろいろとご教授よろしくお願ひします。



スにいながらにして母国日本の人々の意識変化や意識の違いを探ることができるところが魅力だった。

その後、何千人を対象にした統計を用いる「定量調査」をするこの企業から、「定性調査」(テーマごとに少人数を対象として深く掘り下げてインタビューすることにより消費者から自発的かつ具体的な意見が得られる)を専門とする会社に転職した。そこでは企業のコミュニケーションツール(広告、パッケージなど)や製品コンセプトのテスト、またはブランド・エクイティ調査などを様々な分野で行った。ここでも日本市場を主に担当し、日本に年数回出張してインタビュー、リサーチを行うのが楽しかった。

そこで数年勤めた後、第二子が生まれた時点で定性調査のフリーランスになった。定性調査では、昼間働いている人を対象とする場合、夜や週末にグループインタビューが行われることが多い。小さな子供がいる環境ではそういった時間帯の仕事や地方、海外出張は難しいため、仕事の量を減らし、オンラインリサーチを優先するなど、仕事の形態を変えていった。

目下三人の子のバイリンガル教育に燃える日々である。フランスではおろそかになりがちな日本語をキープするため、通信教育や公文、補修校、日本語の映像や漫画、また日本より早く始まる夏休みを利用して小学校の体験入学をさせるなど、あの手この手である。普段自分が意識していない日本語の文法をフランス語の

Pas à pas on va loin

三浦房子 (昭51)

私は、月2回フランス語を学んでいます。正確に言うと、フランス語で、フランスの文化・政治・自然など様々な話題について学んでいます。

先生はステファン・デュセリエ(43歳)、生徒は私を含めて女性4人。クラスが始まってから、今年でもう15年目です。

テキストと並行して、DVDを使って工夫を凝らした授業は、いつも脳細胞を刺激してくれます。「ジュリー・レスコー」というタフな女性警部が主人公のドラマのセリフを聞き取ったり、ヤン・アルテュス・ベルトランの地球に関するドキュメンタリー「HOME」や7月14日の軍事パレードの映像を見たり。

サラ・ヴィーナーの料理番組もずいぶん見ました。番組で取り上げた「ジャムの妖精」のクリスティヌ・フェルベールが、サロン・ド・ショコラのイベントで東京に来た時に、彼女に会って「フランス語のクラスであなただけのことを知りました」と言ったら、ショコラや本をいただいたこともありました。

辞書で調べただけでは、単語のイメージがつかめないことがあります。味覚に関して、succulent という語が出てきたとき、先生は「キャビアやシュークルートを口にしたときのsensation」だと説明してくれました。こういうときは、先生が私たちにとって得難い存在であると痛感します。

休暇の取り方の話題から juilletiste と aoûtien を、遊園地の乗り物の話題から montagnes russes 「ジェットコースター」を、と数えきれないほどの知識も学びました。同時に、物事のとらえ方や観察力も鍛えられた気がします。

すばらしい先生と仲間に巡り会えた幸運に感謝するとともに、これからも楽しみながら少しずつフランス語の旅を続けていきたいと思っています。

昔日の青春 佛友會々報 80年のタイムカプセルを開ける 7

坂井英俊 (昭40)

昭和8年、軍令部参謀であった平出英夫先輩からの寄稿である。彼は、練習艦隊の副官として遠洋航海へ出るが、米国へ寄港したのが、あの国際連盟脱退の翌日であった。「軍国日本の将来如何と全世界注目の中」艦隊は行く先々でなぜか最高の礼をもって大歓迎を受けたという。不可解には思えるが、情報や理念の異なる当時の人々と、豊富な客観材料に恵まれた後世の我々とは、時代への認識・評価は相当に違うのである。

＜航海中多数の二世、すなわち米国生まれの日本人に会いました。容貌こそ日本人であります思想も言葉も米人として育って居る米国民でありまして、嘗ては父母の国日本を小さなつまらない国だ等と考へて居た模様であるとの事ですが、満州事変此の方帝国があらゆる圧力をも押し退けて独往邁進する雄姿を望み又、決然連盟をも脱退して自己の所信を断行する力強さを見るに及びまして、翻然として日本系たることを誇りとするに至り、其の結果日本語学校の入学が頓に激増するの奇現象を呈したことであります。彼ら二世は小学校時代から大学に至る迄、他人種出の米人に比較して目立って良成績だと、米人教師達も誉めて居りました。彼らは未だ見ぬ母国に憧れながら「日本の血の流れる人間として恥ずかしくない立派な米国民になって、日米親善に盡したいと思ひます」等と申して居り、他人種系の米国民からも非常に尊敬を受けて居ります様子で、日本人種の優秀さは斯く至る處に証明せられ、敬意を表されて居ります喜びを御伝え致しま

す。[中略]日米両海軍将来のアドミラル(提督)たちが、私的に相知り相交わる只今の軟らかい心持が其の儘、大きく生長した暁、両海軍の運命に如何に美しい影響を投ずるかを想像しますことは誠に楽しいことであります。[中略]ある候補生は「何んだ太平洋の横幅は此の位か。三度立って我が南洋に至るに及んで太平洋何者ぞとの感を深くした。この分なら太平洋をして、我が庭の池たらしむるも甚だ遠くはあるまい」と書いておられます>

後世からみれば、軍令部参謀の要職にありながら国連脱退の意味を判断する客観情報も少しも持たされていなかったことは奇異であるし、ましてや8年後の真珠湾攻撃・在米日本人排斥運動・原爆投下などを、彼は夢想だにしていなかった。「やらねばやられる」というあの殺伐たる情勢の中、聡明で無垢な青年たちは「顧みはせじ」とばかり、無謀な「国策正義」へとまっしぐらに「挺身」して行ったのである。世界はファシズム・共産主義の暗闘で荒れ狂っていた。日共中央委員の野呂栄太郎は品川署で拷問死、文部省は思想局を設置、美濃部達吉を「不敬罪」で告発、大凶作の東北地方では「娘の身売り」、ヒトラーは首相と大統領を兼任、トロツキー「血の大粛清」は代議士1966名のうち1108名を射殺、パリでは反ファシズム40万人デモと、まさに何処を見ても憎悪と混乱のるつぼであったが、じつはこれも、さらなる世界大惨劇の序章でしかなかったのである。

こうした波乱の年月、わが仏友会とはどんな様子だったのであろう。「会務報告」によれば、

＜去る十月午後五時から新宿の白十字のホールにて総会が開催された。ビールの栓が抜かれて先輩諸氏の熱弁、想い出話や

ベースがある相手に説明することの必要性を感じ、日本語教師の勉強をはじめ、子供の日本語の学習に役立てるとともに、フランス人に日本語を教えたりもするようになった。

しかし一筋縄ではいかない。なぜならツールとしての言語の習得以外に、根本的な問題があるからだ。バイリンガル教育はコミュニケーション力の向上とアイデンティティの模索の狭間にあるように思える。二つの故郷を持つ彼らは両方の文化に親しむ柔軟さを持つが、日本で生まれて日本で育った母親の私とも、フランス人の父親とも全く別のアイデンティティを持つ。もちろん共感する部分は多いのだが、愛国心という部分で決定的違いがあるように思う。私は自分を親日親仏だと思い込んでいたのだが、時として日本びいきをする発言をしているらしく、多感な10歳の長男はするどく察知、「日本ばかりほめて、フランスをばかにしないで」と激しい非難の声をあげる。おそらく逆に日本が非難されることがあったときには、日本をかばう発言をするであろう。

冒頭でも述べたように、私はフランスに恋をした、あくまでも「日本人」なのである。フランスと日本という複合的なアイデンティティを持つ彼らは、私にも未知なる世界を持っているに違いなく、今後も理解を深めていかななくてはならない対象なのであろう。今後巡り会う世界の異なる背景を持つ人々と同様に。

編集雑感

★今年、A.サンテグジュペリが亡くなって70年目にあたる。それを記念して、7月19日恵比寿の日仏会館で「星の王子さま」シンポジウムが日仏経済交流会パリクラブの主催で開催された。

コンサート、シンポジウム、懇親会の3部構成であったが、そのソロ・ライブコンサートには、我らの小幡君枝さん(52年卒)が登場し、小泉たかさんのピアノで、G.ベコーのヒット曲「L'important, c'est la rose」などを魅力的な歌声で披露し会場の雰囲気盛り上げた。また、懇親会には、サンテグジュペリの遠戚にあたる、虎ノ門ヒルズのホテル「アンダーズ東京」の総支配人サンテグジュペリ氏もお祝いに駆けつけた。小幡さんの引き続きの活躍に期待したい。

★アナログ世代の幹事が多い仏友会に、若手の森本あづささんが幹事に加わった。また中堅会員の木村元康さんには仏友会応援の一文を寄せて頂いた。日頃仏友会の活性化・充実に腐心している幹事一同にとって大変嬉しく、心強い支えである。

インターネットなどのデジタルツールも活用して国内外の会員相互の情報交換、親睦を図りつつも、ヒューマン・タッチのアナログ的な交流を大切に仏友会を更に皆で盛り上げたいと願っている。「登録会員」の方々には今後とも積極的参加と、「未登録会員」への一層の口コミ、声掛けをお願いしたい。

仏友会会計報告

(2013年4月1日～2014年3月31日、単位:円)

収入		支出	
前年度繰越金	798,317		
2013年総会会費	285,000	2013年総会費用	387,647
受取通信費	246,000	「LA NOUVELLE」発行費用	158,580
サロン仏友会会費	159,000	サロン仏友会費用	168,125
		大学語劇お祝い金	30,000
		ゆうちょ銀行振替手数料	11,280
		ゆうちょ銀行振込印字料	1,100
通常貯金利息	163	雑費(文具、コピー等)	2,460
合計	1,488,480	合計	759,192
次年度繰越金	729,288		

本校教官の非難や、外国事情の紹介や後輩への忠言や等々であったが、就中池内氏の同窓会設立と共に「仏友会をブツブセ」なる激論は場内に興奮を呼び起こし、また中田氏の「そんなことはどうでもええ、もっと大きな声で話して貰ひ度い、私は兵隊だからどうもそう云ふことに気が付いて仕方がない」は大人気であったし、又加治木氏は「古い顔に沢山会へるだらうと思って来たが意外に出席者が少なく少し残念だ」と言われたが実にその通りであった。それから余興に入りお国自慢の民謡やキンキラキン(キンキラ節)や東京音頭等で騒ぎ立て、やがて又席に帰ってラマルセーエーズを合唱、木村幹事の閉会の辞の後、鷲尾猛先生の御発声で仏友会の万歳を高唱して九時半、一同盛会を喜んで散会した。列席者総数七四。現会員数は八四三名。内海外在住者四五名、ただし支那満州を除いた数で、フランスは一七名であります。また行方不明と云ふのが四一名。即ち仏友会から雲隠れした連中ですが、やっぱり何処かで何かやっつてることせう。どうも困ったものですが仕方がありません。三十余年の歴史と八百の会員を持ちながらこれではどうかと思ひます>さながら梁山泊の酒宴。この荒ぶる神々の心底にも、やり場のない不安や絶望・自暴自棄・慷慨のどす黒いマグマが渦巻いて見えるのである。

ひどい時代だったからというほかはないが、いま夜空を見上げれば「今も同じだ」と、宇宙からの空ろな声がきこえてくる。古代より現代に至るもなお侵略殺戮を繰り返し、地球を食い尽くして忌むことのない「性悪の種・人類」は必ず滅亡する運命にあるのだが、いっぽう博愛や良心・許しを知っているのもまた人類だけなのである。

(次回へつづく)